



2018.6.15

ダブルかオーバーコールか (2)

ときどきおやっと思ふことを聞くことがあります。それは「ただのオーバーコールだからそれほど強くないのよ」とか「強かったからダブルしたのよ」です。たしかに古いスタイルのブリッジを代表する Goren の本 (Goren's Bridge Complete, 1963 初版 1942) を見ると p.158 に

♠ AKJ10x ♥ Kxxx ♦ xx ♣ Ax

を持って、右手が 1 マイナーで開けた時、1 S とオーバーコールするのではなく、テークアウトダブルをまずしなさい、そうでないと強さを示せないからと書いています。このスタイルは、昔ブリッジを習った人たちのスタイルであり、そのような人たちに影響を受けている今の人たちのスタイルでもあります。だからそのような人たちから冒頭の発言が出てくるのでしょう。

多くのペアはコンベンションカードの Simple Overcall の欄

1 level \_\_\_ to \_\_\_ HCP (usually)

には 8 から 15 と書いています (人によっては 8 から 16 でしょうが)

しかしながら時代は変わり、オーバーコールの上限がどんどん高くなってきています。新しいスタイルを代表する 1 つ : Robson の本 (Partnership Bidding At Bridge, 1993) p.304 では、右手が 1 D オープンしたとき

- a) ♠ AJ976 ♥ K1064 ♦ 5 ♣ AJ7
- b) ♠ KJ7 ♥ AQ6 ♦ 5 ♣ AQ10754
- c) ♠ A76 ♥ AQJ96 ♦ 5 ♣ KQ107
- d) ♠ AKJ76 ♥ K6 ♦ 5 ♣ A9753

a) ~ d) いずれのハンドもテークアウトダブルするのでなく、まずオーバーコールすることを勧めています。( a) は 1 S、b) は 2 C、c) は 1 H、d) は 1 S) 付随して

(1 D) - 1 S - (P) - P  
 (2 D) - X

のようなシーケンス、まずオーバーコールしてから次の機会にダブルするのはテークアウトダブルとして扱っています。古い人たちの中にはこのようなダブルはペナルティダブルだと主張する人もいました。今はほとんどの人がテークアウトダブルと受け止めているとは思いますが。

また Sally Horton の本 Double Trouble, 1991 では、単なるオーバーコールからでは強すぎダブルから入るハンドの例に

- e) ♠ AK543 ♥ 7 ♦ AQ75 ♣ AJ7
- f) ♠ AKJ1054 ♥ A53 ♦ AQ6 ♣ 5
- g) ♠ 64 ♥ A7 ♦ AK6 ♣ AQJ1054

のようなハンドは右手が 1 H オープンしてきた場合にまずダブルして、次に自分のスートを言いなさいとしています。いずれも 18HCP のハンドです。しかし

♠ AJ832 ♥ 7 ♦ AK53 ♣ AQ7

のようなさほど良くない Quality のスペードの 18HCP ハンドではどうでしょうか? 18HCP あるからといって、まずダブルから入り、次にスペードをリビッドするのでしょうか? だいたいここで 2 S とビッドしたとして、それはフォーシングなのでしょうか? ノンフォーシングなのでしょうか? また、ダブルが 18 + HCP あって 5 枚以上のスペードがあるとと言われても、レスポンドが

♠ 94 ♥ J6532 ♦ 106 ♣ 9864

を持っていたら

(1 H) - X - (P) - 2 C  
 (P) - (2 S) - (P) - ?

と来た時何とこののでしょうか? しかたなく 3 S というのでしょうか? 1 S とオーバーコールしていた方が問題が生じなかったと思います。

時代が進むにつれてオーバーコールの上限が高まってきていて、この傾向はさらに進むように思います。だからコンベンションカードの Simple Overcall の欄には 8 から 18- と書くのが普通になるのではと思っています。Horton の本の e) の例も 1 S とオーバーコールしても問題なさそうに思えます。しかし f) は X から入らないとゲームルーズしそうに思えますが。もちろん X の後に 2 S とリビッドしたらそれはフォーシングですが。